

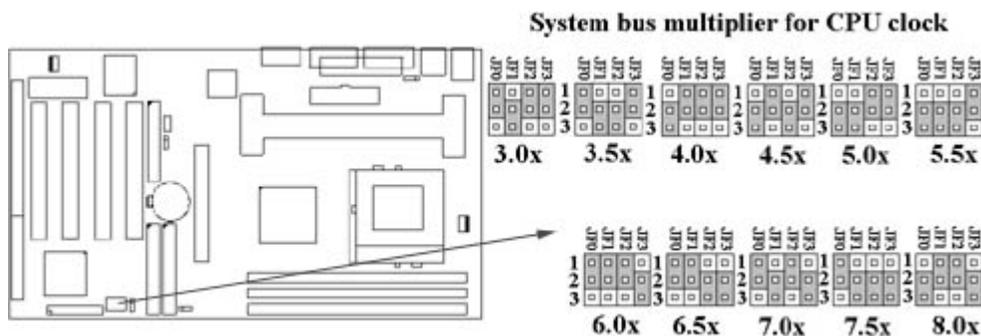
## 簡易導入ガイド

CPU倍率を手動で設定する必要があるCPUをお使いの場合は、下記の表を参考にして下さい。

CPU Model		Ratio	JF0	JF1	JF2	JF3
300/100	200/66	3.0x	1-2	2-3	1-2	1-2
350/100	233/66	3.5x	1-2	2-3	2-3	1-2
400/100	266/66	4.0x	2-3	1-2	1-2	1-2
450/100	300/66	4.5x	2-3	1-2	2-3	1-2
500/100	333/66	5.0x	2-3	2-3	1-2	1-2
550/100	366/66	5.5x	2-3	2-3	2-3	1-2
600/100	400/66	6.0x	1-2	1-2	1-2	2-3
650/100	433/66	6.5x	1-2	1-2	2-3	2-3
700/100	466/66	7.0x	1-2	2-3	1-2	2-3
750/100	500/66	7.5x	1-2	2-3	2-3	2-3
800/100	533/66	8.0x	2-3	1-2	1-2	2-3

\*\*\* CPUの倍率を設定しても反映されない場合は、倍率固定タイプのCPUである可能性が強いです。詳しくはCPUベンダーにお問い合わせ下さい。

\*\*\* オーバークロックでお使いになられる場合は、くれぐれも自己責任で行ってください。ボードが壊れてもCPUが壊れても、弊社では一切関知しません。



## DCS P2/370A マザーボード

ユーザーズマニュアル

**Product Name: P2/370A**

**Manual Revision: 日本語第1版**

## **商標**

Intel, Socket 370, Celeron, Pentium II and Pentium III は米国インテル株式会社の登録商標です。

Awardは米国Awardソフトウェア株式会社の登録商標です。

MS-DOS, Windows 95, Windows 98 and Windows NTは米国マイクロソフト社の登録商標です。

Novellは米国ノベル社の登録商標です。

Sound Blaster及びSB16は米国クリエイティブテクノロジー社の登録商標です。

ESS及びSolo-1は米国ESSテクノロジー社の登録商標です。

その他このマニュアルに記載されているブランド名及び商標は、各社の登録商標です。

## **著作権について**

このマニュアルの著作権は、日本エイサー株式会社にあります。日本エイサーに対する文書による許諾無しに、電子的、機械的、光学的、手書き、その他の手段により本書の内容を複写、伝送、検索可能な形での保存、他言語への翻訳、コンピュータ言語へ変換することを禁じます。

1. 本書の内容は、将来予告無しに変更することがあります。
2. 本書の内容については万全を期しておりますが、万一記載漏れ等がありましたら弊社までご連絡願います。
3. 本製品を運用して結果については、上記2項に関わらず弊社は一切の責任を負いません。マニュアルの記載事項の不備についても、将来的な訂正以外の義務を弊社は負わないものとします。

## **目次**

### **第一章. 概要**

- 1.1 製品概要
- 1.2 特徴
- 1.3 仕様
- 1.4 梱包物一覧

## 1.5 システムボードレイアウト

# 第二章. ハードウェアセットアップ

## 2.1 システムの導入

### 2.1.1 ジャンパー設定

### 2.1.2 CMOSデータの消去

### 2.1.3 CPU電圧設定

### 2.1.4 CPU周波数倍率設定

### 2.1.5 CPU外部周波数設定

## 2.2 CPUの取り付け

### 2.2.1 Slot1 CPUの取り付け

### 2.2.2 Socket 370 CPUの取り付け

## 2.3 メモリの取り付け

### 2.3.1 168ピンDIMMの取り付け

### 2.3.2 168ピンDIMMの取り外し

### 2.3.3 メモリ設定

## 2.4 I/Oコネクタ、パネルコネクタ

### 2.4.1 ATX電源コネクタ

### 2.4.2 CPUファン電源コネクタ

### 2.4.3 赤外線コネクタ

### 2.4.4 Wake-up on LANコネクタ

### 2.4.5 SB\_LINKコネクタ

### 2.4.6 FDDコネクタ

### 2.4.7 IDEコネクタ

### 2.4.8 PS/2マウスポート

### 2.4.9 PS/2キーボードコネクタ

### 2.4.10 シリアルポート

### 2.4.11 パラレルポート

### 2.4.12 USBコネクタ

### 2.4.13 パネルコネクタ

# 第三章. BIOSセットアップ

- 3.1 CMOSセットアップユーティリティ
- 3.2 Standard CMOS Setup
- 3.3 BIOS Features Setup
- 3.4 Chipset Features Setup
- 3.5 Power Management Setup
- 3.6 PNP/PCI Configuration Setup
- 3.7 Integrated Peripherals
- 3.8 Load BIOS Defaults
- 3.9 Load Setup Defaults
- 3.10 Supervisor/User Password
- 3.11 IDE HDD Auto Detection
- 3.12 Exit CMOS Setup Utility

## 第一章. システムの導入

### 1.1 製品の概要

この度はDCS P2/370A マザーボードをお買い求め頂きまして誠にありがとうございます御座います。このマザーボードは、Intel社の最新技術である440BX AGPsetを搭載しています。我々は更に高い互換性を確保する為に、現在一般的に使用されているCPU・VGAカード・メモリ・CD-ROMの動作確認をするとともに、MS-Office等のアプリケーションの動作テストも行っています。もちろん、Y2Kと呼ばれている西暦2000年問題もクリアしています。様々なテストをパスしたこのボードを、我々は自信を持ってお届けします。

このマニュアルでは、全体を3つの章に分け、導入・部品の取り付け・BIOS設定の順に説明してまいります。

マニュアルの内容については十分吟味しておりますが、万一誤字脱字乱丁及び内容に不備がある際は弊社までご連絡下さい。

但し、弊社はこのマニュアル及びシステムボードが原因により発生したいかなる問題に関しても、一切の責を負わない物とします。システムボードの不備により稼動できない場合でも、その遺失利益については保証いたしません。

このマニュアルは4つの章にわかれています。

### 1.2 特徴

- AGP(Accelerated Graphics Port)ポート対応による高性能描画

- モデムによる自動起動
- LANによる自動起動
- タイマーによる自動起動
- ACPI (Advanced Configuration Power Interface)電源管理対応

### 1.3 仕様

<b><u>CPU</u></b> :	- Intel Socket 370, Celeron 266~500 + MHz, Pentium II, Pentium III 233~500 + MHz プロセッサに対応
<b><u>Chipset</u></b> :	- Intel 440BX AGPset チップセット
<b><u>DIMM</u></b> :	- 3.3V 168ピンSDRAMを3枚搭載可能 SDRAMのサイズは、 8/16/32/64/128/256 MBに対応し、最大で768MBまで増設できます。
<b><u>IDE</u></b> :	- PCIバスマスタIDEを2チャンネル搭載。最大4台までのEIDEデバイスを接続できます。 - PIO Mode4モードでは最大14MB/秒転送に対応。 - UltraDMA/33対応により、最大33MB/秒転送に対応。
<b><u>BIOS</u></b> :	- 2Mbits Award BIOS V.4.51 with built-in Anti-Virus, DMI Plug and Playに対応。 - CD-ROM, SCSI, LS120/ZIP からの起動に対応。 - NCR SCSI BIOSに対応。
<b><u>I/O Devices</u></b> :	- FDDコネクタには、最大2台の5.25インチまたは3.5インチFDドライブを接続可能。 - 16550互換シリアルポート×2 - ECP/EPP対応パラレルポート×1 - PS/2マウスポート×1 - PS/2キーボードコネクタ×1
<b><u>IR Port</u></b> :	- IrDA/ASKIR赤外線ポート (日本ではサポートされません)
<b><u>USB Ports</u></b> :	- USBポート×2
<b><u>ATX電源</u></b> :	- モデムによる自動起動 - ソフトウェアシャットダウン - 内蔵タイマーによる自動起動 - LANによる自動起動
<b><u>拡張スロット</u></b> :	- 32bit PCIスロット×4 - 16bit ISAスロット×1 - 32bit AGPスロット×1
<b><u>その他</u></b> ::	- SB_Link端子搭載
<b><u>Operating System</u></b> :	- Windows 95 OSR2.1/OSR2.5/98, Windows NT4.0, MS-DOS/V 6.22
<b><u>外形寸法</u></b> ::	- 305 mm x 170 mm ATX Form factor

## 1.4 梱包物一覧

このパッケージには、以下の物が同梱されています。欠品がある場合は、販売店様にお問い合わせ下さい。

- P2/370Aマザーボード1枚
- IDEケーブル1本
- FDケーブル1本
- CPUリテンション1個
- ドライバCD-ROM1枚
- マニュアル1部



## 2.1 システムの導入

1. ジャンパ設定
2. CPUの取り付け
3. メモリの取り付け
4. I/Oコネクタ及びパネルコネクタの接続

### 2.1.1 ジャンパ設定

このマニュアルでは、ジャンパの1番2番をショートさせることを(1-2)と記述し、2番3番をショートさせることを(2-3)と記述します。ジャンパピンは色分けされていますので、下記を参考にしてください。

黄色いジャンパピン：	CMOSの動作状態を設定します。 ボード上の記述：JRTC
緑色のジャンパピン：	CPU周波数倍率設定 ボード上の記述：JF0, JF1, JF2, JF3
赤色のジャンパピン：	CPU外部周波数設定 ボード上の記述：JFSB

#### 警告：

電子部品は静電気による素子破壊に大変敏感です。ボードへのダメージを避ける為に、デバイス取り付け等の作業をする際は以下の点に留意してください。

-絨毯等、静電気が発生しやすい場所では作業しない。

-作業を開始する前に、ケースのフレーム等アースが取れる場所に予め触れ、体内の静電気を放電しておく。

### 2.1.2 CMOS Clear (黄色いジャンパ)

JRTC: CMOS動作状態

- 1-2 : CMOS Clear
- 2-3 : 通常動作(規定値)

CMOS Clearの手順

1. 電源を切ります。
2. ATX電源コネクタをJ1から取り外します。
3. 黄色いジャンパピン(JRTC)を(1-2)から(2-3)へ移動します。

4. ピンを元に戻します。
5. ATX電源コネクタを再び接続します。
6. 電源を投入します。
7. 起動時に<DEL>キーを押し、BIOSを設定します。

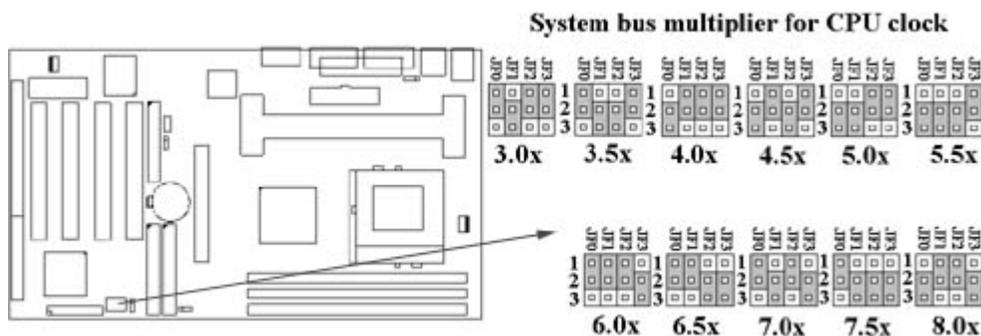
### 2.1.3 CPU電圧設定

P2/370AはCPU電圧を自動的に設定します。Pentium II / III CPUの場合は1.3Vから3.5Vまで、Socket370またはcerelon CPUの場合は、1.3Vから2.0Vの範囲で自動設定されます。

### 2.1.4 CPU周波数倍率設定 (緑色のジャンパ)

<i>CPU Model</i>	<i>Ratio</i>	<i>JF0</i>	<i>JF1</i>	<i>JF2</i>	<i>JF3</i>
300/100	200/66	3.0x	1-2	2-3	1-2
350/100	233/66	3.5x	1-2	2-3	1-2
400/100	266/66	4.0x	2-3	1-2	1-2
450/100	300/66	4.5x	2-3	1-2	1-2
500/100	333/66	5.0x	2-3	2-3	1-2
550/100	366/66	5.5x	2-3	2-3	1-2
600/100	400/66	6.0x	1-2	1-2	2-3
650/100	433/66	6.5x	1-2	1-2	2-3
700/100	466/66	7.0x	1-2	2-3	1-2
750/100	500/66	7.5x	1-2	2-3	2-3
800/100	533/66	8.0x	2-3	1-2	1-2

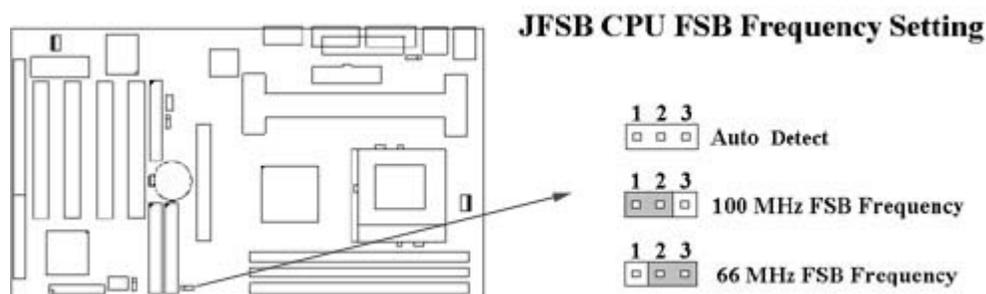
CPU周波数倍率は、CPUによっては内部で固定されている物があります。この場合は、倍率変更はできません。



### 2.1.5 CPU外部周波数設定 (赤色のジャンパ)

JFSBジャンパを使用することにより、66MHz系と100MHz系の外部周波数

(FSB(FrontSideBus))を自由に設定することができます。但し、66MHz系のCPUを100MHz FSBで動作させることは、CPU等の素子を破壊する原因になりますので、使う場合は自己責任で設定して下さい。オーバークロックについては、弊社では一切の保証を致しません。

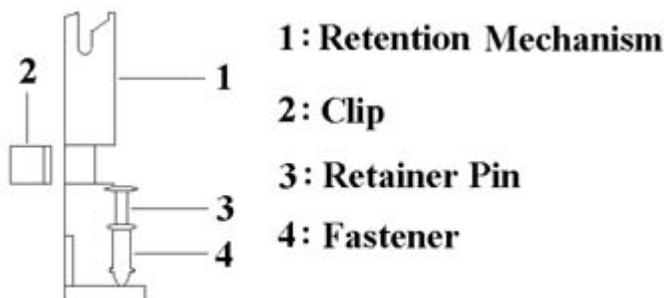


## 2.2 CPUの取り付け

### 2.2.1 Slot1系CPUの取り付け

P2BXA-Vには、Pentium II (SECC)、Celeron、及びPentium II (SECC2)タイプのCPUを取り付けられます。

リテンションメカに、CPUを取りつけます。



添付のリテンションキットは、3種類のCPUに対応しています。(SECC, SECCII, SEPP).

Pentium II (SECCタイプ)の取り付け

- 1.CPU取り付けの邪魔になるパーツを取り外します。
- 2.ガイドにCPUをまっすぐ挿し込みます。
- 3.接触不良にならないよう、Slot1にガッチリと挿し込みます。
- 4.周辺部品を元通りに組み立てます。

Pentium II (SECC2)及びCeleronの取り付け

- 1.(SECCタイプと同様)

- 2.(SECCタイプと同様)
- 3.(SECCタイプと同様)
- 4.添付の2つのクリップで、カードリッジを固定します。
- 5.周辺部品を元通りに組み立てます。

**注意：**新しいうちはリテンションガイドが固く、CPUの取り付けには力がある場合があります。

## 2.2.2 Socket 370 CPUの取り付け

Socket370 CPUの取り付けは、CPU固定レバーを90度垂直に起こした状態で、ピンを曲げないように慎重にソケットにCPUを挿しこみます。ソケットには2箇所の切り欠きが付いているので、ソケットとCPUの切り

欠きを合わせます。CPUがしっかり挿し込まれた事を確認したら、レバーを再び倒してCPUを固定します。

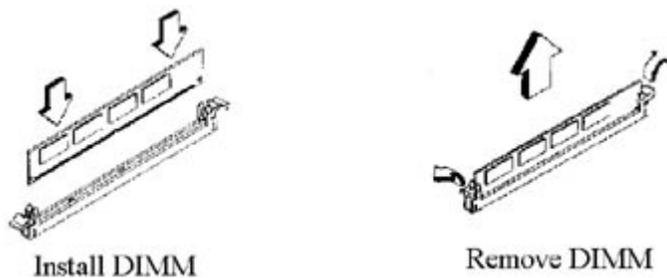
## 2.3 増設メモリ

P2/370Aマザーボードは、168ピンDIMMを3枚まで取り付けできます。信頼性確保の為、3.3VタイプのSDRAMをお使い下さい。

### 2.3.1 168ピンDIMMの取り付け

1. ソケット両脇のロックを開きます。
2. 切り欠きを合わせ、しっかりとDIMMを挿し込みます。

### 2.3.2 168ピンDIMMの取り外し



1. ソケット両脇のロックを開きます。
2. 垂直にDIMMを引き出します。

### 2.3.3 メモリ設定

メモリの仕様は自動判別される為、特に設定項目はありません。

<i>DIMM Socket</i>	<i>DIMM Modules</i>
DIMM1	EDO/SDRAM 8, 16, 32, 64, 128, 256MB
DIMM2	EDO/SDRAM 8, 16, 32, 64, 128, 256MB
DIMM3	EDO/SDRAM 8, 16, 32, 64, 128, 256MB

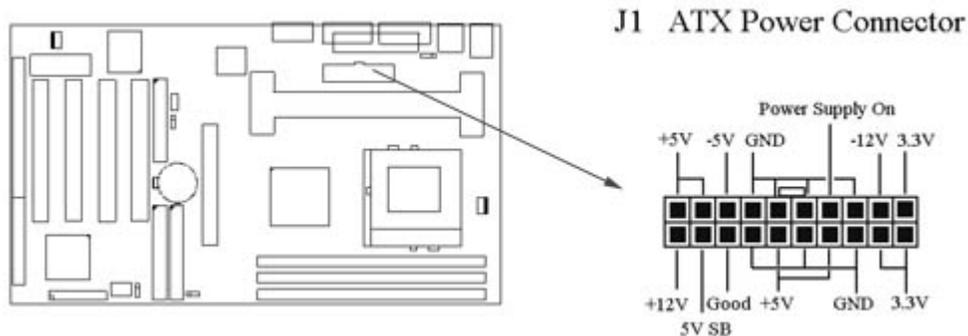
## 2.4 I/Oコネクタ、パネルコネクタ

### I/Oコネクタ

J1	ATX電源コネクタ
PFAN1	CPUファンコネクタ
SIR	赤外線コネクタ (日本ではサポートされません)
JP1	Wake up on LANコネクタ
SB_LINK	SB_LINKコネクタ
JFLP1	FDDコネクタ
IDE1, 2	プライマリ/セカンダリIDEコネクタ
MS	PS/2マウスポート
KB	PS/2キーボードコネクタ
JCOM1, 2	シリアルポート1,2
JPRT	パラレルPort
USB1, 2	USBコネクタ

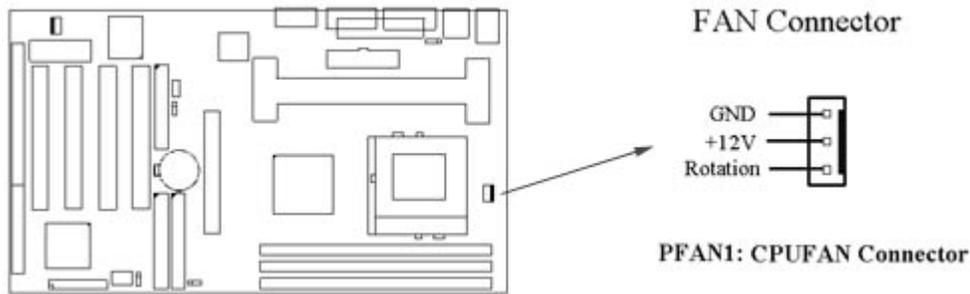
### 2.4.1 ATX電源コネクタ (20ピン J1)

電源ユニットから来ているATX電源コネクタを接続します。



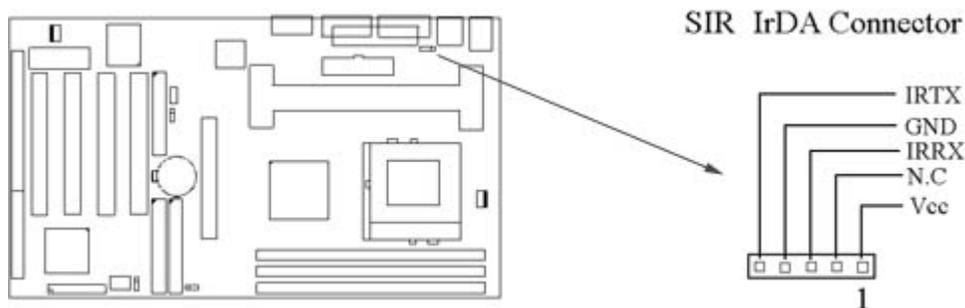
### 2.4.2 CPUファンコネクタ(3ピン PFAN1)

CPU冷却ファンから来ている3ピンのコネクタを接続します。温度センサー無し  
Connect the fan's plug to the board taking into consideration the polarity of the connector.



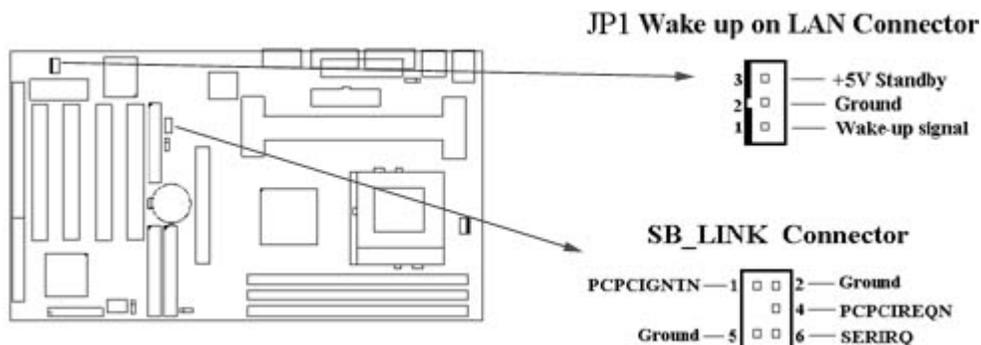
### 2.4.3 赤外線コネクタ (5ピン SIR)

このコネクタは、赤外線通信ユニットを接続するコネクタです。IrDA方式及びASK-IR方式をサポートしますが、日本では赤外線ユニット及びこのコネクタはサポートされません。



### 2.4.4 Wake-up on LANコネクタ (3ピン JP1)

このコネクタにWakeUp on Lan対応のLANカードを取り付けることにより、LANからのリモート起動が可能になります。但し、スタンバイ電流が720mA以上あるATX2.01対応の電源装置と、リモート制御が可能なサーバー及びソフトウェアが必要です。

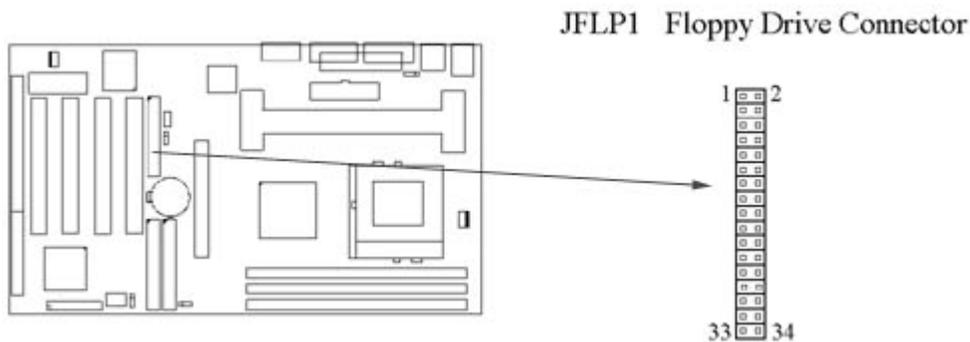


### 2.4.5 SB\_LINKコネクタ (6ピン SB\_LINK)

このコネクタとサウンドカードのSB\_LINK端子を接続することにより、PCIサウンドカードをDOSゲーム等で使用することができます。但し、100%の互換性を保証するものではありません。

SB\_LINKの詳細については、クリエイティブ社のホームページ等をご覧ください。

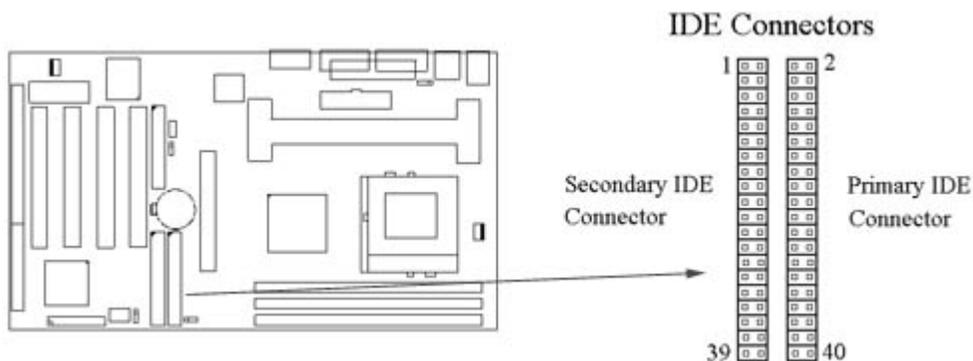
### 2.4.6 FDDコネクタ(34ピン JFLP1)



このコネクタには、3.5インチまたは5インチのフロッピーディスクドライブを最大2基まで接続できます。逆接続に注意してください。

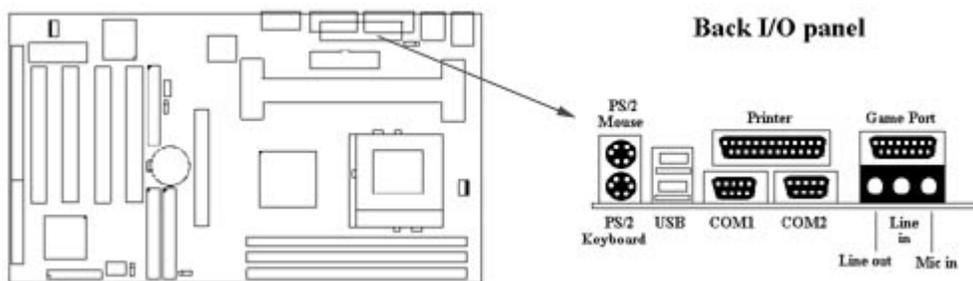
#### 2.4.7 プライマリ/セカンダリIDEコネクタ(40ピン IDE×2)

このコネクタには、IDEリボンケーブルを介して最大2基×2系統のEIDE機器を接続できます。通常は、プライマリ側から機器を接続します。



#### 2.4.8 PS/2マウスポート (6ピン ミニDIN MS)

このポートには、マウスを接続します。PS/2マウスを使用する場合は、IRQ12番のリソースを消費します。



#### 2.4.9 PS/2キーボードコネクタ (6ピン ミニDIN KB)

このコネクタには、PS/2キーボードを接続します。ミニDINコネクタを採用しておりますので、ATキーボード等を接続する際は変換コネクタを使用してください。

#### 2.4.10 シリアルポート (D-sub9ピン JCOM)

#### 2.4.11 パラレルポート (D-sub25ピン JPRT)

パラレルポートは、SPP/ECPの高速通信に対応しています。この機能を使う場合は、DMAのリソースを消費します。設定は、CMOS SETUP UTILITIで行います。

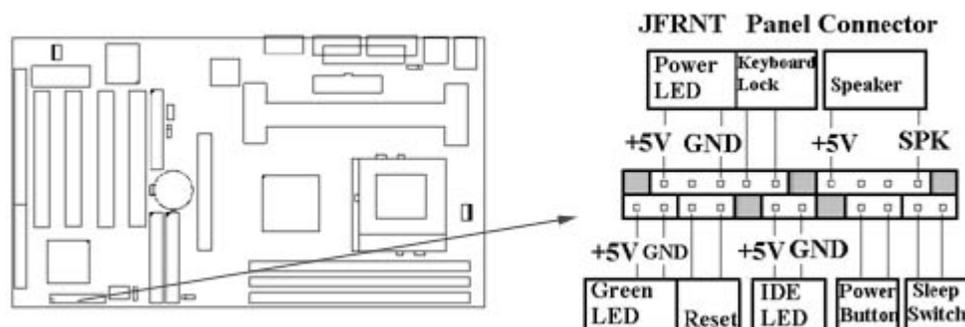
## 2.4.12 USBコネクタ (4ピン USB×2)

USB機器を接続します。

## 2.4.13 パネルコネクタ(24ピン JFRNT)

JFRNT Connector	Function
GREENLED	Suspend Mode LED
PWRLED	Power LED
KEYLK	Keylock Switch
SPKR	Speaker
RESET	Reset Switch
IDELED	HDD LED
PWRBNT	ATX Power Button Connector
SMISW	Sleep Switch

**警告**：コネクタを着脱する場合は、電源を切ってください。



## 第三章. BIOSセットアップ

### 3.1 CMOSセットアップユーティリティ

システム起動時に<DEL>キーを押すことにより、CMOSセットアップメニューに入ることが出来ます。画面に“Press DEL to enter SETUP” の表示が出ている間に<DEL>キーを押してください。

(Figure 3-1)のような画面が出ますので、カーソルキーで選択し、Enterキーを押すことでサブメニューに入れます。

Figure 3-1. CMOS Setup Utility Main Screen

ROM PCI/ISA BIOS (XXXXXXXX)

CMOS SETUP UTILITY  
AWARD SOFTWARE, INC.

STANDARD CMOS SETUP BIOS FEATURES SETUP CHIPSET FEATURES SETUP POWER MANAGEMENT SETUP PNP / PCI CONFIGURATION LOAD BIOS DEFAULTS LOAD SETUP DEFAULTS	INTEGRATED PERIPHERALS SUPERVISOR PASSWORD USER PASSWORD IDE HDD AUTO DETECTION SAVE & EXIT SETUP EXIT WITHOUT SAVING
Esc : Quit F10 : Save & Exit Setup	↑↓→← : Select Item (Shift) F2 : Change Color
Time, Date, Hard Disk Type...	

### 3.2 Standard CMOS Setup

(Figure 3-2)の画面では、システム時計等の基本的な設定を行います。値は<PageUp><PageDown>キーで上下できます。

Figure 3-2. Standard CMOS Setup Screen

ROM PCI/ISA BIOS (XXXXXXXX)  
STANDARD CMOS SETUP  
AWARD SOFTWARE, INC.

Date (mm:dd:yy) : Wed, Dec 10 1997									
Time(hh:mm:ss) : 17 : 52 : 00									
HARD DISKS	TYPE	SIZE	CYLS	HEAD	PRECOMP	LANDZ	SECTOR	MODE	
Primary Master	: Auto	0	0	0	0	0	0	0	AUTO
Primary Slave	: Auto	0	0	0	0	0	0	0	AUTO
Secondary Master	: Auto	0	0	0	0	0	0	0	AUTO
Secondary Slave	: Auto	0	0	0	0	0	0	0	AUTO
Drive A	: 1.44M , 3.5in.								
Drive B	: None								
Video	: EGA / VGA								
Halt On	: All Errors								
					Base Memory : 640K				
					Extended Memory : 31744K				
					Other Memory : 384K				
					Total Memory : 32768K				
ESC : Quit			↑↓→← : Select Item				PU / PD / + / - : Modify		
F1 : Help			(Shift) F2 : Change Color						

#### 3.2.1 Date

日付は「年：月：日」の形式で入力します。システムBIOSは1994年から2079年までの年度に対応できます。

#### 3.2.2 Time

時刻は「時：分：秒」の形式で入力します。午後2時34分であれば、02:34:00になります。

### 3.2.3 Hard Disks Setting

このBIOSでは、2チャンネルのバスマスタIDEをサポートしています。通常は"AUTO"の設定でお使い下さい。"USER"にすると手動でセクタ数やシリンダ数を入力できますが、数値を誤って入力すると起動時にハングアップする場合があります。

全てのドライブをSCSI接続する場合は、"NONE"にすることでリソースを節約できます。

### 3.2.4 Floppy Drives A&B Setting

接続するFDドライブの種類を設定します。360KB (5.25" ), 720KB (3.5" ), 1.2MB (5.25" ), 1.44MB (3.5), 2.88MB (3.5" )の中から選択できます。

### 3.2.5 Video Display Adapter Setting

VGAアダプタの種類を設定できます。通常はEGA/VGAに設定して下さい。

### 3.2.6 Halt On

起動時のPower-On Self Testで問題が見つかった場合に、システムを停止させるのかあるいは無視するのかを設定できます。

## 3.3 BIOS Features Setup

このサブメニュー (**Figure 3-3**)では、AWARD BIOSの拡張項目を設定できます。<F1>キーを押すことでヘルプメニューを表示できます。

Figure 3-3. BIOS FEATURES SETUP SCREEN

ROM PCI / ISA BIOS (XXXXXXXX)  
BIOS FEATURES SETUP  
AWARD SOFTWARE, INC.

Virus Warning	: Disabled	Video BIOS Shadow	: Enabled
CPU Internal Cache	: Enabled	C8000-CBFFF Shadow	: Disabled
External Cache	: Enabled	CC000-CFFFF Shadow	: Disabled
CPU L2 Cache ECC Checking	: Enabled	D0000-D3FFF Shadow	: Disabled
Quick Power On Self Test	: Enabled	D4000-D7FFF Shadow	: Disabled
Boot Sequence	: C, A, SCSI	D8000-DBFFF Shadow	: Disabled
Swap Floppy Drive	: Disabled	DC000-DFFFF Shadow	: Disabled
Boot Up Floppy Seek	: Disabled		
Boot Up Numlock Status	: On		
Gate A20 Option	: Fast		
Typematic Rate Setting	: Disabled		
Typematic Rate (Chars/Sec)	: 6		
Typematic Delay (Msec)	: 250		
Security Option	: Setup		
PCI/VGA Palette Snoop	: Disabled		
Assign IRQ For VGA	: Enabled		
OS Select For DRAM>64MB	: Non-OS2		
Report No FDD For WIN 95	: Yes		
		ESC : Quit	↑ ↓ → ← : Select Item
		F1 : Help	PU/PD/+/- : Modify
		F5 : Old Values (Shift)	F2 : Color
		F6 : Load BIOS Defaults	
		F7 : Load Setup Defaults	

### 3.3.1 Virus Warning

この項目を使用すると、起動時にブートセクターを確認し、書換えられた場合にウイルスに侵された可能性があるとして警告を出すことができます。通常は"Disable"でお使い下さい。

### 3.3.2 CPU Internal/External Cache

この項目で、CPUの内部キャッシュ及び2次キャッシュを使用するかどうか選択できます。

### 3.3.3 CPU L2 Cache ECC Checking

CPUのECCチェックをするかどうかを選択します。CPU側が対応している場合はより高い信頼性を得られますが、若干パフォーマンスに影響します。

### 3.3.4 Quick Power On Self Test

“Enabled”を選択することにより、起動時のテストを簡略化し、起動を高速化できます。

### 3.3.5 Boot Sequence

システムがどのデバイスから優先的に起動するかを選択します。

### 3.3.6 Swap Floppy Drive

フロッピーディスクドライブを2台接続している場合に、AドライブとBドライブを交換する機能です。

### 3.3.7 Boot Up Floppy Seek

この項目が設定されると、システムは起動する度に接続されているドライブの種類を検査します。

### 3.3.8 Boot Up Numlock Status

起動時に<NumLock>を有効にするかどうかを選択します。通常はアクティブに設定して下さい。(テンキーが使えなくなります)

### 3.3.9 Typematic Rate Setting

“Enabled”を選択すると、“Typematic Rate”及び“Typematic Delay”の項目が有効になります。

### 3.3.10 Typematic Rate

キーを押しつづけたときに、リピートさせるかどうかを選択します。

### 3.3.11 Typematic Delay

リピートが始まるまでの時間を設定します。

### 3.3.12 Security Option

システム起動時にパスワードを設定できます。システム起動時のパスワードと、BIOS設定画面に入る際のパスワードを別々に設定できます。

### 3.3.13 PCI/VGA Palette Snoop

MPEG2カード等を使う場合はEnabledにして下さい。

### 3.3.14 Assign IRQ For VGA

この項目をEnabledにすると、VGAカードにIRQが割り当てられます。リソースは消費しますが、通常はEnabledに設定して下さい。

IRQが割り当てられていない場合、OS起動中にハングアップします。

### 3.3.15 OS Select for DRAM > 64MB

OS/2をお使いで、かつメモリを64MB以上実装する場合は、OS/2側に設定して下さい。

### 3.3.16 Video BIOS Shadow

VGAカードのROM内容をシステムメモリに展開して、動作を高速化します。

### 3.3.17 C8000-CBFFF /DC000-DFFFF Shadow

拡張カード等のROM領域がこのシステム領域と競合する場合、システムROMのアドレスを移動できます。

## 3.4 Chipset Features Setup

この項目では、システムのチップセットについて設定します。

**Figure 3.4** CHIPSET FEATURES SETUP SCREEN

ROM PCI / ISA BIOS (XXXXXXXX)  
CHIPSET FEATURES SETUP  
AWARD SOFTWARE, INC.

Auto Configuration	: Enabled	CPU Host Clock	: Default
EDO DRAM Speed Selection	: 60ns		
EDO CAS# MA Wait State	: 2		
EDO RAS# Wait State	: 2		
SDRAM RAS-to-CAS Delay	: 3		
SDRAM RAS Precharge Time	: 3		
SDRAM CAS latency Time	: 3		
SDRAM Precharge Control	: Enabled		
DRAM Data Integrity Mode	: Non-ECC		
System BIOS Cacheable	: Enabled		
Video BIOS Cacheable	: Enabled		
Video RAM Cacheable	: Enabled		
8 Bit I/O Recovery Time	: 1		
16 Bit I/O Recovery Time	: 1		
Memory Hole At 15M-16M	: Disabled	ESC : Quit	↑ ↓ → ← : Select Item
Passive Release	: Enabled	F1 : Help	PU/PD/+/- : Modify
Delayed Transaction	: Disabled	F5 : Old Values	(Shift) F2 : Color
AGP Aperture Size (MB)	: 64	F6 : Load BIOS Defaults	F7 : Load Setup Defaults

### 3.4.1 Auto Configuration

チップセット及びCPU関連を自動設定します。通常はEnabledでお使い下さい。

### 3.4.2 EDO DRAM Speed Selection

EDO-DIMMを使用した場合の速度を設定します。

### 3.4.3 SDRAM RAS-to-CAS Delay

SDRAMのCASレイテンシを設定します。メモリのCL値を参照して設定して下さい。

### 3.4.4 SDRAM RAS Precharge Time

SDRAMへのデータ転送とデータ転送の間隔ウェイトを設定します。あまり詰めすぎると、動作が不安定になる場合があります。

### 3.4.5 DRAM Data Integrity Mode

ECC対応のメモリをお使いの場合は、この項目を設定することで、より高い信頼性を得ることが出来ます。

### 3.4.6 System BIOS Cacheable

システムBIOSをシステムメモリにキャッシュし、動作を高速化します。

### 3.4.7 Video BIOS Cacheable

ビデオBIOSをシステムメモリにキャッシュし、動作を高速化します。

### 3.4.8 Video RAM Cacheable

ビデオRAMの頻繁に使われる領域をキャッシュし、動作を高速化します。

### 3.4.9 8 Bit I/O Recovery Time

8ビットI/Oに対して、どの程度のリカバリタイムを取るかを設定します。少なければ高速化方向、多ければ安定方向になります。

### 3.4.10 16 Bit I/O Recovery Time

8ビット同様に、16ビットI/Oのリカバリタイムを設定します。

### 3.4.11 Memory Hole At 15M-16M

システムメモリの15MBから16MB空間を使用するか切り離すかを設定します。通常このメモリ空間はISAバスに使用されるため、この領域をアプリケーションに使用すると動作が不安定になる場合があります。この領域をISAに割り当てると、システムメモリは1MB分少なくなります。

### 3.4.12 Passive Release

ISAカードを使用している場合に、互換性問題が出た場合はこの項目を変更してみてください。

### 3.4.13 Delayed Transaction

PCIバスのサイクルとISAバスのサイクルはスピードが違う為、互換性問題が発生する場合があります。その場合、その項目を変更してみてください。

### 3.4.14 AGP Aperture Size (MB)

AGPカードがメインメモリを使用する際に、どの程度のサイズで転送するかを設定します。あまり大きく設定すると、正常に動作しないVGAカードもあります。

### 3.4.15 CPU Host Clock

CPUの外部周波数を選択できます。

FSBと各バスの関係は以下の通りです。

Ext. frequency	AGP	PCI	ISA	DIMM
66Mhz	66Mhz	33Mhz	8.33Mhz	66Mhz
75Mhz	75Mhz	37.5Mhz	8.33Mhz	75Mhz
83Mhz	83Mhz	41.6Mhz	8.33Mhz	83Mhz
100Mhz	66Mhz	33Mhz	8.33Mhz	100Mhz
103Mhz	68.6Mhz	34.3Mhz	8.33Mhz	103Mhz
105 Mhz	70Mhz	35Mhz	8.33Mhz	105Mhz
110Mhz	73.3Mhz	36.67Mhz	8.33Mhz	110Mhz
112Mhz	74.6Mhz	37.3Mhz	8.33Mhz	112Mhz
115Mhz	76.6Mhz	38.33Mhz	8.33Mhz	115Mhz
120Mhz	80Mhz	40Mhz	8.33Mhz	120Mhz
124Mhz	82.6Mhz	31Mhz	8.33Mhz	124Mhz

124AMhz	82.6Mhz	33Mhz	8.33Mhz	124Mhz
133Mhz	88.6Mhz	44.33Mhz	8.33Mhz	133Mhz
133AMhz	88.6Mhz	33Mhz	8.33Mhz	133Mhz
140Mhz	93.3Mhz	35Mhz	8.33Mhz	140Mhz
150Mhz	100Mhz	37.5Mhz	8.33Mhz	150Mhz

**ご注意:**

75, 83, 103, 105, 110, 112, 115, 120, 124, 124A, 133, 133A, 140 and 150MHz の設定は、あくまでも実験的な目的で用意されており、オーバークロックでの動作はシステムに重大な損傷を与える危険があります。

103, 105, 110, 112, 115, 120, 124 or 124AMHzを設定する場合は、メモリは8ns以下の物を設定して下さい。124Aと133Aの場合、AGPバスは非同期で動作します。

**警告:** オーバークロックは自己責任で行ってください。

### 3.5 Power Management Setup

この項目では、省電力に関する設定を行います。

Figure 3-5. POWER MANAGEMENT SETUP SCREEN

ROM PCI / ISA BIOS (XXXXXXXX)  
POWER MANAGEMENT SETUP  
AWARD SOFTWARE, INC.

ACPI function	: Disabled	<b>** Reload Global Timer Events **</b>
Power Management	: Disabled	IRQ[3-7, 9-15], NMI : Disabled
PM Control by APM	: Yes	Primary IDE 0 : Disabled
Video Off Method	: V/H SYNC+Blank	Primary IDE 1 : Disabled
Video Off After	: Standby	Secondary IDE 0 : Disabled
MODEM Use IRQ	: 3	Secondary IDE 1 : Disabled
Doze Mode	: Disabled	Floppy Disk : Disabled
Standby Mode	: Disabled	Serial Port : Enabled
Suspend Mode	: Disabled	Parallel Port : Disabled
HDD Power Down	: Disabled	
Throttle Duty Cycle	: 62.5%	
PCI/VGA Act-Monitor	: Enabled	
Soft-off by PWR-BTTN	: Instant-off	
PowerOn by Ring	: Disabled	ESC : Quit      ↑ ↓ → ← : Select Item
Resume by Alarm	: Disabled	F1 : Help      PU/PD+/- : Modify
		F5 : Old Values      (Shift) F2 : Color
Wake up on LAN	: Disabled	F6 : Load BIOS Defaults
IRQ 8 Break Suspend	: Disabled	F7 : Load Setup Defaults

#### 3.5.1 ACPI Function

P2/370Aは、"Advanced Configuration and Power Interface"いわゆるACPIに対応しています。

#### 3.5.2 Power Management

Mini Saving	システムは使用しなくなってから約1時間後にパワーセーブモードに入ります。
Max Saving	システムは使用しなくなってから約1分後にパワーセーブモードに入ります。
User Defined	各項目を分単位で設定できます。

### 3.5.3 PM Control by APM

“Yes” を選択すると、従来のAdvanced Power Management (APM)モードで電源管理を行います。

### 3.5.4 Video Off Method

この項目は、ビデオが無信号状態の時に、どのような形式の信号を出すかを設定します。ブランク信号にするのか、DPMS (Display Power Management System)規格に準拠した信号にするかを選択できます。

### 3.5.5 Video Off After

システムがサスペンドモードに入った際に、モニター出力を停止するか、ブラックスクリーンを出力するかを選択します。

### 3.5.6 Doze Mode

システムのパフォーマンスを落として電力消費を落とす、最も基本的な省電力設定です。

### 3.5.7 Standby Mode

CPUの一部機能を除き、ほぼ全てのデバイスを停止させる省電力モードです。

### 3.5.8 Suspend Mode

全てのデバイスが省電力モードに入る、最も省電力なモードです。

### 3.5.9 HDD Power Down

ハードディスクの回転を止めます。

### 3.5.10 PCI/VGA Act-Monitor

省電力モードに入る際に、VGAの動きを関知するかどうかを設定します。

### 3.5.11 Soft-off by PWR-BTTN

電源ボタンを押した際に、すぐに電源が落ちるのか、4秒間ボタンを押し続けた場合に電源を落とすのか設定できます。

### 3.5.12 PowerOn by Ring

モデムの着信信号を検知してシステムの電源を投入することができます。

### 3.5.13 Resume by Alarm

この項目では、システムタイマを使用してシステムを起動させたり終了させたりできます。

### 3.5.14 Wake up on LAN

この項目を設定することにより、ネットワークからシステムを起動させることができます。但し、対応したネットワーク環境及びサーバーと、ATX2.01対応の電源ユニットが必要です。

### 3.5.15 Date (of Month) Alarm, Time (hh:mm:ss) Alarm

システムタイマを使用し、設定した時刻にアラームを鳴らせます。

### 3.5.16 IRQ 8 Break Suspend

IRQ 8番 (RTC=リアルタイムクロック)の信号を検知した際に、サスペンド状態から復帰するかどうかを設定します。

### 3.5.17 IRQ[3-7, 9-15], NMI

各IRQの割り込み信号が入った際に、サスペンド状態から復帰させるかどうかを設定します。

### 3.5.18 Primary/Secondary IDE 0/1, Floppy Disk, Serial & Parallel Port

これらの項目をDisableに設定することにより、システムリソースを開放します。当然、そのデバイスは使用できなくなります。

## 3.6 PNP/PCI Configuration Setup

Figure 3.6 PNP/PCI CONFIGURATION SETUP

ROM PCI / ISA BIOS (XXXXXXXX)  
PNP/PCI CONFIGURATION  
AWARD SOFTWARE, INC.

PNP OS Installed	: No	Used MEM base addr	: N/A
Resources Controlled By	: Manual	Used MEM Length	: 8K
Reset Configuration Data	: Disabled	Assign IRQ For USB	: Enabled
IRQ-3 assigned to	: PCI/ISA PnP		
IRQ-4 assigned to	: PCI/ISA PnP		
IRQ-5 assigned to	: PCI/ISA PnP		
IRQ-7 assigned to	: PCI/ISA PnP		
IRQ-9 assigned to	: PCI/ISA PnP		
IRQ-10 assigned to	: PCI/ISA PnP		
IRQ-11 assigned to	: PCI/ISA PnP		
IRQ-12 assigned to	: PCI/ISA PnP		
IRQ-14 assigned to	: PCI/ISA PnP		
IRQ-15 assigned to	: PCI/ISA PnP		
DMA-0 assigned to	: PCI/ISA PnP		
DMA-1 assigned to	: PCI/ISA PnP		
DMA-3 assigned to	: PCI/ISA PnP		
DMA-5 assigned to	: PCI/ISA PnP		
DMA-6 assigned to	: PCI/ISA PnP		
DMA-7 assigned to	: PCI/ISA PnP		
		ESC : Quit	↑ ↓ → ← : Select Item
		F1 : Help	PU/PD/+/- : Modify
		F5 : Old Values	(Shift) F2 : Color
		F6 : Load BIOS Defaults	
		F7 : Load Setup Defaults	

### 3.6.1 PNP OS Installed

Plug-and-Play (PnP)オペレーティングシステムを使用するかどうかを設定します。"No"に設定すると、OS側にPnP情報が提供されません。通常は"Yes"でお使い下さい。

### 3.6.2 Resources Controlled By

システムリソースを自動設定するかどうかを設定します。"Manual"に設定した場合は、IRQ等のリソースを全て手動で設定する必要があります。通常は"Auto"でお使い下さい。

### 3.6.3 Reset Configuration Data

システム設定テーブル(BIOS内部にあります)に記憶されたPnP情報をリセットできます。システムリソースに競合が発生した際、設定を初期化するために使います。

### 3.6.4 IRQ-xx assigned to

お使いのISAカードがPnPに対応していない場合は、IRQ-x assigned to : " Legacy ISA" を選択し、手動でIRQを割り当ててください。

### 3.6.5 DMA-x assigned to

上記と同様に、DMAを割り当てできます。

### 3.6.6 Used MEM base addr

通常は変更しないで下さい。

### 3.6.7 Assign IRQ For USB

USBホストアダプタにIRQを割り当てるかどうかを選択します。USBを使う場合、及びAGPカードをお使いの場合は、Enabledにしておいて下さい。

### 3.7 Integrated Peripherals

この画面では、入出力デバイスについて設定できます。

Figure 3-7 Integrated Peripherals

ROM PCI / ISA BIOS (XXXXXXXX)  
INTEGRATED PERIPHERALS  
AWARD SOFTWARE, INC.

IDE HDD Block Mode	: Enabled	UR2 Mode	: Normal
IDE Primary Master PIO	: Auto		
IDE Primary Slave PIO	: Auto	Parallel Port Mode	: ECP
IDE Secondary Master PIO	: Auto	ECP Mode Use DMA	: 3
IDE Secondary Slave PIO	: Auto		
IDE Primary Master UDMA	: Auto		
IDE Primary Slave UDMA	: Auto		
IDE Secondary Master UDMA	: Auto		
IDE Secondary Slave UDMA	: Auto		
On-Chip Primary PCI IDE	: Enabled		
On-Chip Secondary PCI IDE	: Enabled		
USB Keyboard Support	: Disabled		
Init Display First	: AGP	ESC : Quit	↑↓→←: Select Item
Onboard FDC Controller	: Enabled	F1 : Help	PU/PD/+/- : Modify
Onboard Serial Port 1	: Auto	F5 : Old Values (Shift)	F2 : Color
UR1 Mode	: Normal	F6 : Load BIOS Defaults	
UR1 Duplex Mode	: Half	F7 : Load Setup Defaults	
Half Duplex time-out	: Enabled		
Onboard Serial Port 2	: Auto		

#### 3.7.1 IDE HDD Block Mode

マルチセクタ転送を有効にすることで、パフォーマンスを向上できます。

#### 3.7.2 IDE Primary & Secondary Master/Slave PIO

PIO転送モードを手動で設定できますが、通常は"Auto"でお使い下さい。

#### 3.7.3 IDE Primary & Secondary Master/Slave UDMA

UltraDMA/33転送について有効無効を設定できます。通常は"Auto"でお使い下さい。

#### 3.7.4 On-Chip primary/Secondary PCI IDE

IDEコントローラーの有効無効を選択できます。Disableにすることで、システムリソースを開放できます。

#### 3.7.5 USB Keyboard Support

USBキーボードを使う場合はEnabledに設定して下さい。主なUSBキーボードでテスト済みですが、あらゆるUSBキーボードの動作を保証するものではありません。

### 3.7.6 Init Display First

マルチディスプレイ環境でお使いの場合、AGPとPCIのどちらのカードを1番目のモニターにするかを設定できます。

### 3.7.7 Onboard FDC Controller

オンボードFDDコントローラーの有効無効を設定できます。

### 3.7.8 Onboard Serial Port 1 & 2

オンボードシリアルポートのアドレス及びIRQを設定します。

通常はCom1が3F8/IRQ4、Com2が2F8/IRQ3に設定されています。

### 3.7.9 UR1 & 2 Mode Select

赤外線ポートの動作状態を設定します。

(日本ではサポートされません)

### 3.7.10 Onboard Parallel Port

パラレルポートのアドレスを設定します。

### 3.7.11 Parallel Port Mode

パラレルポートの動作モードを選択できます。EPP転送を使用する場合は、DMAリソースが消費されます。

### 3.7.12 ECP Mode Use DMA

EPP転送においてDMAが使用される場合の、DMAチャンネルを設定します。

## 3.8 Load BIOS Defaults

標準的なBIOS設定を呼び出すことができます。

## 3.9 Load Setup Defaults

比較的安定志向に設定されたBIOS設定を呼び出すことができます。

## 3.10 Supervisor/User Password

システム起動時とBIOSセットアップメニューに入る時のパスワードを設定できます。一度パスワードを入力した後、確認のためもう一度同じパスワードを入力してください。

一度設定されたパスワードは、そのパスワードが無い限り変更できませんので、しっかり管理して下さい。

### 3.11 IDE HDD Auto Detection

通常は起動時に毎回行われるIDEハードディスクの検出を予め行い、情報をCMOSに保存しておくことにより、起動時間を短縮できます。ディスクドライブの構成が変わった場合は、StandardSetupのIDE設定をAUTOに戻すか、あるいは再度この項目で検出させてください。

この項目で設定した場合、IDE設定は"USER"になります。

### 3.12 Exit CMOS Setup Utility

<F10>キーまたは<ESC>キーを押すことで、BIOSセットアップメニューから抜けることができます。設定を保存する場合は、"Y"を選択して<ENTER>を押してください。